

マルチピッチ講習会 ～ドキドキ初体験～

【報告者】H田

【日時】2018年11月17日(土)～18日(日) 【天候】イマイチ

【参加者】

17日：A屋、I藤、I井、K田、K崎、みっちー、H田

(夜から)T橋、Dr.、F谷、会員外2名(I木さん、I村さん)

18日：A本ち、I藤、I井、O原、K田、K崎、Dr.、みっちー、F谷、H田

《コースタイム》

11月17日(土) 日向神

集合 10:00 道端エリア → 11:30 頃ハナタテ岩スラブ状カンテルート取付き→

13:30 頃 道端エリアへ移動→16:00 グリーンパル日向神(泊)

11月18日(日) 日向神

集合 9:30 道端エリア→11:00 頃ハナタテ岩取り付き→16:00 道端エリアにて解散

《 報 告 》

ピナクル山の会に入会して1年足らず。入会した頃初めて『マルチピッチ講習会』という行事があると知った時は、正直何をするのか全く見当もつかなかった。「せっかくだから、体験してみたいです～」なあって軽いノリでチャレンジを決めたものの、準備期間は2ヶ月ほど。リードクライミングジムで練習×1回、日向神の道端エリアで外岩体験×2回のみで、身も心も準備が整わないままデビューの時を迎えることとなってしまった。

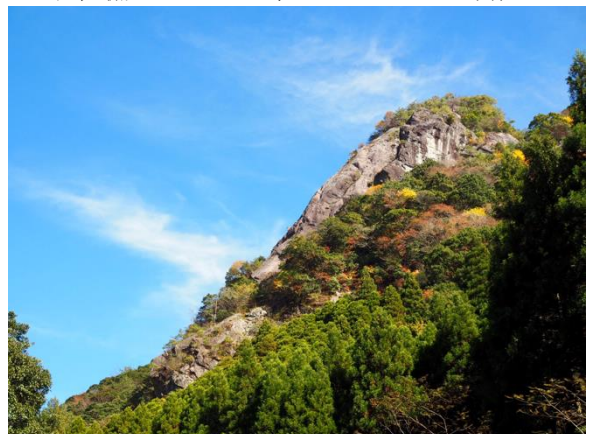
< 1日目 昼 >

週間天気予報は不安定で、2日前に雨から晴れに変わった。朝から時折青空はのぞいていたが、前日に降った雨の影響が気になる。現地に向かう車中では、岩壁が乾いているか、登る時間までに乾けばいいけどなんて話になるも、その状態がどう影響するのかもよく分からないまま、不安と期待でドキドキしているうちに、現地に着いた。

日向神峽がある奥八女は、毎年この時期にお祭りが催されるとあって、付近の紅葉はとても美しかった。

道端エリアに集合すると、前週にぎやかだったゲレンデは、1組4名ほどしか居なかった。そこからハナタテ岩を眺めても、乾いているか分からない。とりあえず装備を身につけ、チームと登る順番を決めて、ゲレンデへ向かうことになった。

車道を少し歩き、溪流を渡渉して取り付きに向かう。その渡渉地点にあるはずの小さな橋が見あたらない。苔がついた滑りそうな岩の上をこわごわ渡る。K崎さんに「そこ滑るよ～」と声をかけていただいたところで、まさかのドボン！両足とも靴が濡れてしまい、幸先の悪さにトホホである。たどり着いたハナタテ岩のゲレンデは、人気もなく静かだった。



岩肌を撫でると、湿った土の粒子で手が汚れる。思っていた以上にコンディションは悪そうだ。しばらく待機して乾くのを待つ。やきもきしながら過ごすうちに、気づけば1時間以上経過していた。みんなどうしようかと顔を見合わせ、まずI井さんが先行して登ってみることになった。ところが…。

スタート地点から次のとこまで登ってヌンチャクをかける少し手前で、I井さんがズズズーっと滑り落ちてしまう。足場をタオルで拭いたりしながら再び登るも、同じところでまたズズズー。3度目のトライの時には、まさかの「こわい」の声。これにはみんな全く登れる気がなくなってしまった。

仕方なく、ハナタテ岩に明日よろしくと伝えて、道端エリアに戻りフリーの練習となった。こちらは乾いており、前週より少し上手く登れた気がして、いいイメージで初日を終えることができた。



<1日目 夜>

初日の練習を終えた後は、宿泊地のグリーンパル日向神峡へ。居心地のいいコテージに着いたら、早速みんなでお酒準備。夜から参加の方や夜だけ参加の方もいて、人が増えるにつれて、馬刺しやお酒など品数も増える。美味しいお食事とお酒を前に、話は尽きず、とても楽しいひとときだった。



ぎょうざ



石狩鍋



ハマグリのお鍋



I村さんとお酒たち

<2日目>

いよいよマルチ・デビューの朝を迎える。前夜の賑わいのわりにスッキリ目覚めてホッとする。

朝から風は冷たくも青空がのぞく。いよいよ登るんだなあと思うと、少し緊張してしまう。登れなかったら、美味しくて食べ過ぎたせいにしちゃおうかな、なんて言い訳を準備した。

午前9時半。ゆっくり支度した後コテージを出て、道端エリアに集合する。昨日よりもクライマーさんが多い。先にハナタテ岩方面に向かうパーティーの姿もあった。

この日だけ参加のA本ちさんは「すごく久しぶりだから練習ね」なんて言いながら、新品だという装備を身につけ、すいすい登る。声がとても楽しそうで、緊張が少し和らいだ。チームを決めて、再びハナタテ岩に向かう。途中、昨日ドボンした渡渉が立ちはだかる。昨日から乾かない靴を履いた私はともかく、みんな慎重。と、今度はA本ちさんがドボン！まさかここが核心部！？

こうしてたどり着いたハナタテ岩はというと…。今回登る予定の「カンテ状スラブルート」は既に5パーティー、隣の「黄金週間」も登っているパーティーが見える。「2～3時間は待つかな」とみっちーさん。口には出さないけど、猶予ができてホッとする。先行する人達を見てれば参考になるかと思っ

たのだ。

待っている間に、Dr.とF谷さん、A本ちさんの3人は、「メタボ検診」的な所（本当にそのルートだったのかな？）にトライする。なぜか道端ルートで留守を預かることになったO原さんのドローンが途中飛来するも、違うパーティーを捉えている様子がおかしかった。そのくらい沢山のパーティーが居たのだ。手を振ってみたけれど、見つけてもらえただろうか…。

そうこうしながら2時間半ほど待ったところで、日向神のルート開拓者の方々が降りてこられ、「新装開店と黄金週間は登れるよ」と声をかけてくださった。Dr.と天本ちさん、I井さんとF谷さんがコンビを組み、それぞれルートに向かう。それから30分くらい待ただろうか、カンテ状スラブルートも最後のパーティーが登ったので、K田さんとI藤さん、みっちーさんとK崎さんと私とが組になりスタンバイした。ところがここで、ぽつりと雨が！まさか、嘘でしょ～！？初のマルチで、見上げる岩場の距離の長さや未知の世界にビビる気持ちと、中止かもとホッとさせる気持ちが入り混じる。でもチャレンジして登れないのと、チャレンジ出来ずに帰るのは、後者の方がきつとつまらない。「とりあえず1ピッチ目だけでも登ろう」ということになり、スタートした。

K田さんI藤さんチームが先行する。1ピッチ目の途中、登り上がらないといけな岩が見える。難しそうだ。行けるのか？私。ビビるうちに、みっちーさんがリードで登り始めた。あっという間に1ピッチ目まであがり、いよいよだ。大丈夫かなと思う私に、後方から登るK崎さんがひとこと。「ここからは何でもあり！落ちないのが一番よ」。今思い出しても、この言葉に一番勇気づけてもらったと思う。そこから先は、本当に何でもアリな酷い有り様だったけど、上から引き上げてくださるみっちーさんと、後ろから励ましてくださるK崎さんのおかげで、なんとか無事2ピッチで登ることができた。いや、登らせていただいた。

途中、ロープがこんがらがるハプニングも、「これがマルチよ」なんて冷静に対応するみっちーさんとK崎さん。先に登り終え、懸垂下降中に声をかけて励ましてくれる先輩方。遅くなくても下で見守ってくれる皆さま。幸い本降りにならずに済んだお天気。降りた後は、ただただ、感謝しかなかった！



クライマーさん達は、どうしてみんな仲がいいんだろうって不思議に思うことがしばしばあった。実際に体験してみると、ひとりでは何もできなくて助けていただくことばかり。人見知りや人に頼るのも苦手で、ついひとりになりがちな私でも、クライミングのゲレンデはそうはいかない。委ねたり委ねられたりするうちに、信頼感や連帯感が生まれるものなのですね。それを少し感じただけでも、とてもいい経験だったと思う。

マルチピッチ講習会は、それなりの達成感とリトライしたい感が40/60といったところ。2019年は、とりあえずジムトレに励んでみようかと心に決めたのでした。

今回ご一緒させていただいた皆さまに、報告できる会の皆さまに、感謝です。